

STAGE+を楽しむ(107)(HP 収載)
—オラフソンのゴルトベルク変奏曲—

1. 始めに

前報(106)に引き続き、STAGE+のオラフソンのゴルトベルク変奏曲の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、オラフソンのゴルトベルク変奏曲の演奏を選びました。

DG125周年記念コンサート：オラフソンのゴルトベルク変奏曲

ソウル 芸術の殿堂

収録日：2023年12月15日

ドイツ・グラモフォンの創立125周年を記念するコンサートのひとつとして、ヴィンゲル・オラフソンの鮮烈なピアノ演奏をソウル 芸術の殿堂からお届けします。プログラムは自身が「これまでに書かれた鍵盤音楽の中で最もヴィルトゥオーズ的なもの」と語るJ.S.バッハの大曲《ゴルトベルク変奏曲》。2023年のDGリリースのなかでも特に大きな話題を呼んでいる全曲盤の発売にあわせて、6大陸で実施予定の世界ツアーの一環です。

ソリスト：

ヴィンゲル・オラフソン（ピアノ）

曲目：

ヨハン・セバスティアン・バッハ 《ゴルトベルク変奏曲》 BWV 988



3. 試聴の経過

前回は引き続き、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpLを接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

このライブ収録に先立ち、リリースされたアルバムは、[STAGE+を楽しむ\(86\)](#)で報告しています。このアルバムでは「オラフソンのピアノは、優しく美しく、この曲を抒情的と言えるくらいソフトタッチで表現していきます。」と述べていますが、今回のライブ収録でも同様です。また、アルバムの再生では、「変奏楽章の試聴途中から、スイッチングハブからPCへのLANケーブルにLANアキュライザーを装着してみました。打鍵の力強さが出てきてダイナミックな表現も可能になってきました。」というように1個目のLANアキュライザーを使用しましたが、今回は上記のように2個目のLANアキュライザーを追加し、Crstal EpLも加わっています。

今回のドイツ・グラモフォンの創立125周年を記念するコンサートは、ライブ収録であり、さらに上記の対策が加わっていますので、オラフソンのピアノのタッチの鋭さや余韻が鮮明ですし、ホール内の残響もリアルです。

全曲を休みなしに集中して弾き切っており、終盤のダイナミックな演奏も素晴らしく、終演後は割れんばかりの盛んな歓声に包まれました。

そこで、改めてアルバムとの聴き比べも実施しましたが、こちらの方も様変わりしており、美しさに力強さが加わっていますが、タッチの鋭さや余韻は、ライブ収録に及びません。



4. まとめ

LANアキュライザーとCrstal EpLの効果により、オラフソンのピアノは、優しく美しい上に、力強さや一層細やかな表現が現れてきており、ダイナミックなライブ感も十分です。

以上